

「学校をプラットフォームとした貧困対策とは？」 —スクールソーシャルワーカーの活動を通して—

桃山学院大学社会学部社会福祉学科 金澤ますみ

1. 学校現場での「子どもの貧困問題」への気づき

参考:「貧困を背負って生きる子どもたち 智の物語」【前編】<http://t.co/qFOY7d63ky> 【後編】<http://t.co/H6XyFZwc58>

「貧困を背負って生きる子どもたち 仁の物語」【前編】<http://youtu.be/IWlmZN7t9JQ> 【後編】<http://youtu.be/nwsDYBFowew>

2. 私が考える「学校をプラットフォームに」という言葉の意味

3. スクールソーシャルワーク活動とは

4. 子どもの行動の背景を考える—スクールソーシャルワークの考え方

5. SSWとして教職員から受けた相談内容例

6. 子どもの貧困問題と児童虐待の関係(ただし、貧困＝虐待ではない)

7. 背景にある家族の苦悩(ただし、その苦悩は学校からは見えにくい)——保護者支援の視点

8. ネグレクトが子どもに与える影響

9. 児童虐待と非行の関係

10. 同じように見える「子どもが抱える問題」でも、学校で気づき、背景を知り、行動の理由を理解すれば(アセスメント)、支援の方法(プラン)は異なる＝学校から「つながる」相手が変わる。

11. 児童虐待防止の視点から見た子ども家庭福祉領域の課題(人員数の課題以外で)

12. 個人の努力や現在の制度では改善できない課題と改善策に向けた視点

(1) 学校が終わってからの時間帯に「夕刻を支える場」の創出

「学習」イコール「勉強」だけではない。人間が育つ中で、根源的に必要な人や環境とのかかわり(安心した衣食住の保障)も含めて「学習」と捉えたときに意味をもつ「学習支援」。

(2) 学校という場で行う、朝食支援サービスは可能か(教職員が行うという意味ではない)

(3) 病院受診をしたことのない子どもの存在→学校医・および、地域の小児科・内科医との連携

(4) 保護者負担金でなりたっている教育費用の見直し

➤ 修学旅行費・給食費を無償に。その他の教材費等も本当に必要なものを吟味する

(5) 障害のある子どもなどの登下校時の保護者の送迎負担を改善するために制度の見直し・創出。

(6) 高校進学、高等教育進学時の給付型奨学金制度

(7) 社会的養護のもとを育つ子どもたちが進路を選択できるための生活保障

(8) 少年院を出院する子どもたちの生活支援(社会的居場所としての「学校という場」の可能性)